

平成 29 年度 秋の公民館講座

田辺真人先生の「文化の歴史」講座

Part 16

今、文化の大切さが言われています。講師の田辺真人先生から、歴史学・地域学・民俗学・文化を生かした街づくり、歴史を生かした観光振興など、とっておきの「文化の歴史」を学びませんか。



田辺真人先生

講師「田辺真人氏」のプロフィール

関西学院大学卒業。現在は園田学園女子大学名誉教授・宝塚市大使・川西市生涯学習短期大学学長。1986年～91年にはニュージーランド教育省、国立マッセイ大学に勤務。地域史研究に対して神戸市文化賞・兵庫県文化賞・宝塚市市民文化賞を、教育行政の功労で文部科学大臣表彰を受ける。ラジオ関西「田辺真人まっこと！ラジオ」NHKテレビ「新兵庫史を歩く」などに出演など多方面で活躍中。

著書として「ニュージーランドの風土と生活」「目で見る神戸の100年」「神戸阪神歴史探訪」「神戸人物史」「平清盛と神戸」など多数

時間 午前10時30分～12時 定員 90人・受講料 2,400円（6回分で）

回	月日(曜)	会場	内容	講師
1	10月19日 (木)	芦屋市民センター 401室	大河ドラマの背景の歴史 —おんな城主直虎(1)—	園田学園女子大学 名誉教授 田辺 真人氏
2	11月16日 (木)	401室	—おんな城主直虎(2)—	
3	12月21日 (木)	401室	お正月の歴史	
4	平成30年 1月18日 (木)	301室	4回目以下は、楽しいテーマの 「文化の歴史」の本質に迫る、ミステリー セミナーを設定します。	
5	2月15日 (木)	401室		
6	3月15日 (木)	401室		

■申し込み方法 ①講座名、②住所、③氏名、④電話番号を記入のうえ、平成29年9月13日(水)までに、はがきかファックスまたは公民館備付け用紙で公民館へ(応募多数のときは、市民の方を優先のうえ抽選)結果は、はがきでご連絡をします。

(あて先) 〒659-0068 芦屋市業平町8-24 公民館

■ 主催 芦屋市立公民館 (Tel 0797-35-0700・Fax 0797-31-4998)

歴史を探る ～日本近現代史のいくつかの問題点

今年はルターの宗教改革(1517年)から500年、ロシアの10月革命(1917年)から100年の年に当たります。

今年のエコノミスト誌正月号は2017年をこう表現しています。“Planet Trump”直訳すれば「惑星トランプ」ですが、Planetには放浪する、さまようという意味があり、正しい訳は「彷徨するトランプ」です。全く混迷の時代に入りました。どう進んで行くべきか、過去は未来という言葉があります。この講座では歴史の分岐点をさぐり正しい歴史認識を提示するのを目指して開設しています。

◇時間午前10時15分～11時45分 定員90名 受講料1,200円(3回分)

回	月日(曜)	会場	内容	講師
1	平成29年 10月12日(木)	市民 センター 401室	真珠湾への道	城郭・歴史研究家 菅原 美文 氏
2	11月10日(金)		昭和天皇とマッカーサー	
3	12月8日(金)		幣原喜重郎—日本国憲法を作った男	

講師プロフィール

城郭・歴史研究家。関西学院法学部卒業。姫路市教育委員会で社会教育の業務に長く携わり、その後姫路文学館に勤務。平成7年8年には兵庫県立姫路短期大学の非常勤講師を務める。

現在、姫路文学館、姫路市市民会館、播磨町立図書館、芦屋市公民館で講師を務める。



■申し込み方法 ①講座名、②住所、③氏名、④電話番号を記入のうえ、平成29年9月13日(水)までに、はがきかファックスで公民館へ(応募多数のときは、市民の方を優先のうえ抽選)結果は、はがきでご連絡をします。

(あて先) 〒659-0068 芦屋市業平町8-24 公民館

■主催 芦屋市立公民館 (Tel 0797-35-0700・Fax 31-4998)

平成 29 年度 秋の公民館講座

世界はニュースだけでは



わからない (時事経済講座)

◇ 時間 午後 2 時～3 時 3 0 分 定員 90 人 受講料 2,400 円 (6 回一括)

回	月 日 (曜)	会 場	内 容	講 師
1	平成 29 年 10 月 21 日 (土)	芦屋市民 センター 401 室	2 回目以降のテーマは、政治・経済・社会 問題から、アップ・ツー・デートなテーマ を選択し、現象面だけの解説に終始せず、 ニュースだけではわからない本質に迫り ます。	毎日新聞社編集委員 中西 満 氏
2	11 月 18 日 (土)			研究者、ジャーナリスト などを予定。
3	12 月 16 日 (土)			
4	平成 30 年 1 月 20 日 (土)			
5	2 月 17 日 (土)			
6	3 月 17 日 (土)			

■申し込み方法

①講座名、②住所、③氏名、④電話番号を記入のうえ、はがきかファックスまたは公民館
備付けの用紙で

9 月 13 日 (水) までに公民館へ (応募多数のときは、市民の方を優先のうえ抽選)

〈あて先〉 〒659-0068 芦屋市業平町 8-24 公民館

■主 催

芦屋市立公民館 (Tel 0797-35-0700、F a x 0797-31-4998)

日本人の源流・ 神話を訪ねて

春の講座に続く第2弾です。12月までの3回で国譲り後の神話、天孫ニギハヤヒから力を蓄える日向三代、日向から東征して初代天皇になるカムヤマトイハレビコの国造り、そして再び乱れた国を治める新皇の皇子ヤマトタケルの神話・物語を取り上げます。来年の3回ではいよいよ、天皇の物語に入ります。皇后の裏切りや嫉妬に悩みながら善政に心を砕いた11代垂仁天皇や16代仁徳天皇らの姿を主にヒメたちの視点から読み、日本とは何かを考えます。



受講料 2400円
(6回分一括)

10/2
(月)

日向三代・
天孫たちの嫁取り物語

01

04

女難の天皇・
10代崇神と11代垂仁

1/22
(月)

11/13
(月)

45歳にして立つ！
イハレビコの東征
(旅)物語

02

05

悪妻は仕事師をつくる？
15代応神天皇と
16代仁徳天皇

2/5
(月)

12/4
(月)

女性の力で成し遂げた
国固め・
ヤマトタケルの軍旅物語

03

06

暴君から名君へ・
21代雄略天皇とオケ・ワケ兄弟

3/5
(月)

午前

10:00~11:30

芦屋市民センター401室
(第2回11/13のみ301室)

定員 90名

講師 安本 寿久 氏

兵庫県生まれ。産経新聞社会部次長、編集局次長兼総合編集部長、産経新聞編集長などを経て特別記者編集委員。著書に『評伝廣瀬武夫』、共著に『親と子の日本史』『坂の上の雲をゆく』『人口減少時代の読み方』など。ラジオ大阪「ニューストゥナイトいいおとな」アンカーマン。※「神話取材班キャップ」として執筆

『国民の神話～日本人の源流を訪ねて』平成26年、産経新聞出版

『海道東征をゆく～神武さまの国造り』平成27年、産経新聞出版

申込方法

①講座名 ②住所 ③氏名 ④電話番号 を記入の上、平成29年9月14日までに、はがきかファックスで公民館へ（応募多数の場合、市民優先のうえ抽選）。結果は、はがきでご連絡いたします。

【あて先】〒659-0068 芦屋市業平町8-24 芦屋市立公民館 FAX:0797-31-4998

主催・連絡先：芦屋市立公民館 TEL：0797-35-0700

阪神間 ゆかりの作家たち

「何か贅沢なものを書きたい」と終戦後に猛然と小説を書き始めた井上靖は、舞台を阪神間に設定することが多かった。前衛下着で一世を風靡した鴨居羊子は芦屋で珠玉の動物エッセーを書いた。童謡「サッチャン」で知られる阪田寛夫は大阪・帝塚山学院出身だが阪急沿線びいきだった。さまざまな作家を惹きつけてやまない阪神間。ゆかりの作家たちとその作品をたどる文学講座。春の連続講座に引き続き、秋の連続講座再開です。



10/5(木)

301室

10/26(木)

401室

12/7(木)

401室

午前 10 時 00 分 ~ 11 時 30 分

香櫨園

井上

靖



芦屋

鴨居

洋子



宝塚

阪田

寛夫



【 講師 】

石野 伸子

産経新聞編集局編集委員。1974 年産経新聞大阪本社入社。文化部長、編集局次長などをへて現職。著書に「女 50 歳からの東京ぐらし」、共著に「九転び十起きの女 広岡浅子伝」(いずれも産経新聞出版)。2012 年から産経新聞紙上で「浪花女を読み直す」を連載中。



申し込み方法

①講座名 ②住所 ③氏名 ④電話番号を記入のうえ、平成 29 年 9 月 14 日までに、はがきかファックスで公民館へ(応募多数のときは、市民優先のうえ抽選)。結果は、はがきでご連絡いたします。

宛先：〒659-0068 芦屋市業平町 8-24 芦屋市立公民館 FAX:31-4998



宇宙物理学入門

サイエンス講座

私たちの住んでいる宇宙は、無限の過去から続く平穏な場所ではなく 138 億年前にビッグバンによって始まり、ダイナミックに変化しながら現在の姿に進化してきました。私たち人類もその歴史の中に位置づけられる存在です。この講義では宇宙の進化をたどりながら、私たちが住む地球、ひいては私たち自身が誕生するに至ったドラマを平易に解説したいと思います。また宇宙物理学の最新の話題である重力波についても解説します。



1 10/14 (土)
14:00
我々の住む宇宙

2 11/11 (土)
14:00
星の誕生と物質

3 12/9 (土)
14:00
重力波

芦屋市民センター
401室

講師 須佐元

甲南大学教授

1970 年和歌山県出身。京都大学理学部物理学系卒。同大学院理学研究科物理学宇宙物理学専攻博士課程修了。筑波大学助手、立教大学専任講師、同助教授、甲南大学理工学部物理学科准教授を経て現在甲南大学理工学部教授。博士(理学)

①講座名 ②住所 ③氏名 ④電話番号 を記入の上、ハガキかファックスで
9 月 13 日までに公民館へ(応募者多数の場合は市民を優先の上、抽選)

受講料 1200 円
(全 3 回分)

※結果はハガキでご連絡いたします。

〔宛先〕〒659-0068 芦屋市業平町 8-24 芦屋市立公民館

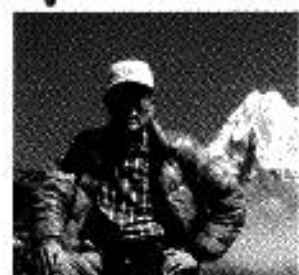
主催：芦屋市立公民館 TEL：0797-35-0700 FAX：0797-31-4998



定員
90 名

健康作りに...
70kmに挑戦!

健康ハイキング講座 紅葉の名所と文化探訪



講師 山のインストラクター
あけびの会 代表
中谷 良三氏

自然に触れながら、健康作りを目指して、毎回 6~10 km 程度、紅葉などのすてきなコースをゆっくりと歩きながら、ハイキングの友だちを作りませんか。そのために懇親会などの楽しい企画が一杯。山のインストラクター 中谷良三さん(健康ハイキング講座の人気講師として活躍。講座終了後多くのグループを作る仕掛け人)の指導で、とっておきの安全なコースをハイキングします。
山を歩くことが出来る「やや中級の方」で団体行動が出来る方が対象で、当日は山を歩くことが出来る服装・靴でご参加ください。この講座から、新しいハイキンググループが誕生できますように...

過去のハイキングの写真から
山の辺の道で柿などの美しい物
...安くて新鮮
須磨・のじぎく群生地にて
京都・永観堂のすてきな紅葉



◇時間 午前 8 時 35 分~午後 4 時頃中心 定員 26 人 受講料等 2,700 円 (9 回分で)・要交通費等

回	月 日 (曜)	時間	内 容 (コース案内)
1	9 月 25 日 (月)	8:35~ 15:10	JR 芦屋~JR 西宮~バスで神呪寺へ~88 箇所巡り~西宮市緑化植物園~閑学学食で 昼食を(弁当は不要)~新幹線公園~門戸厄神~阪急門戸厄神駅へ
2	10 月 2 日 (月)	8:35~ 16:00	新神戸から布引ハーブ園へ -新神戸~布引の滝~布引ハーブ園~北野異人館~三宮へ(希望者で懇親会)
3	10 月 16 日 (月)	8:40~ 15:00	川西池田「五月山へ」 -阪急池田~池田城跡公園~緑化植物園~展望台~五月山公園
4	10 月 23 日 (月)	8:00~ 17:00	季節の果物などを買いながら「山の辺の道」を歩こう -近鉄桜井~大神神社~長岳寺~石上神社~天理へ
5	10 月 30 日 (月)	8:30~ 15:30	神戸市立森林植物園から摩耶山へ -三宮~神戸市立森林植物園~穂高湖~ 摩耶山天上寺~掬星台~ケーブル利用~阪急王子公園駅へ
6	11 月 6 日 (月)	8:50~ 15:30	のじ菊咲く妙法寺から須磨離宮公園へ -妙法寺~のじ菊の群生地~梅尾山~須磨離宮公園~須磨寺~JR 須磨
7	11 月 13 日 (月)	8:35~ 16:00	高尾・高台寺から清滝へ -阪急芦屋川~大宮~梅ノ尾バス停~高山寺~西明寺~ 神護寺入口~清滝川川原で昼食~奥嵯峨野を散策~竹林~阪急嵐山
8	11 月 20 日 (月)	8:45~ 16:00	紅葉の貫面の滝から「こもれびの森」をハイキング -阪急貫面~大滝~ビジターセンター~こもれびの森~地獄谷~貫面へ
9	11 月 27 日 (月)	8:00~ 17:00	紅葉の京都(永観堂、哲学の道、真如堂)を満喫、京都大学学食で休憩 -阪急河原町~歌舞練場~丸山公園~蹴上~哲学の道~真如堂~京都大学へ

備考 コース・時間・行程など、変更になることがあります。(降水確率が 50%以上のときは中止します)

■ 申し込み方法 ①講座名、②住所、③氏名、④電話番号、⑤年齢を記入のうえ、9 月 11 日 (月) までに、はがきか
ファクスで公民館へ (応募多数のときは、市民の方を優先のうえ抽選)
〈あて先〉 〒659-0068 芦屋市業平町 8-24 芦屋市立公民館
■ 主催 芦屋市立公民館 (TEL 0797-35-0700・Fax 31-4998) / 協力 あけびの会 (芦屋市社会教育関係団体)

無料

秋の公民館講座
開講記念講演会

人生の真の価値

～賢く、楽しく、善く生きるために～

今日からでもできる、あんなことこんなこと

生涯学習社会は、一人一人の人間の価値を尊び、みんなが賢く、できるだけ健康に、楽しく、善く生きていくとともに、各人が持っておられる力を社会が活用することをめざしています。

急激な変化が継続している 21 世紀社会の諸相について考えることから始めて、これからの社会の在り方について話してみたいと思います。特に高齢期にある方々を中心にして、お集まりの皆さんがしっかりとした人的ネットワークを作りながら、各人にとってかけがえのない「第二の青春期」(創年期)をどう生きていくのかを探ることができればと願っています。

平成29年 10 月 5 日(木)

午前10時～11時30分

市民センター 401室

神戸学院大学教授

講師 **今西幸蔵** (いまにし こうぞう) 氏 プロフィール

1947年大阪府生まれ。府立高等学校教員等の後、

京都文化短期大学、京都学園大学及び天理大学で教授を務め、現在は神戸学院大学人文学部教授。専門領域は生涯教育・生涯学習学、教職教育学。芦屋市社会教育委員、同市公民館運営審議会委員、兵庫県社会教育委員、京都府生涯学習審議会委員、大阪狭山市社会教育委員、茨木市社会教育委員等。日本生涯教育学会、日本ボランティア学習学会、関西教育行政学会等の会員。著書には『生涯学習論入門』(法律文化社)など多数がある。

申込み不要、直接会場
入場無料(先着 100名)



市民の豊かな記憶を掘り起こす

芦屋の映像 コレクション

ELEGANT 芦屋

2017年10月21日(土)

午前10時00分～11時30分

芦屋市民センター 401室

ユネスコの「世界複合遺産の日」に合わせ、芦屋市でも、2014年から芦屋ホームムービー鑑賞会を始めました。震災前、芦屋市のシティプロモーションのキーワードとして「ELEGANT 芦屋」が使われていた時期がありました。今回はホームムービーだけでなく、「芦屋の映像コレクション」として、市民の豊かな記憶を掘り起こすエレガントな芦屋の情景を映した作品を上映します。

【 上映予定の映像作品 】

1. ELEGANT 芦屋 芦屋ビデオスクエア
2. 「国指定重要文化財 旧山邑家住宅」
——よみがえったF.L.ライトの作品 山本徹男
3. 炎のクレーブ・シュゼット物語 アンリ・シャルパンティエ
4. 「移りゆく芦屋」——建物にみる近代都市への動き 山本徹男

入場無料

先着100名

※申し込みは不要です。直接会場にお越し下さい。

芦屋市民センター 35-0700

古典の日記念講演会

日本のきものは、 恋もよう

江戸時代の小袖にみる文芸模様

江戸時代のある時期、きものに「橋」の模様が流行します。「橋」の模様は、遊女や若衆の着るきものに始まり、1660年代には女院御所に住まう東福門院のきものを飾るようになりました。「橋」の模様を手掛かりに、江戸時代のきものに流行した文芸模様について、その謎を探ります。

2017年11月10日(金)

午後2時～3時30分

芦屋市民センター401室



講師 河上繁樹氏

関西学院大学教授

1956年生まれ。関西学院大学大学院修了後、文化庁美術工芸課、京都国立博物館を経て現職。

専門は、日本美術史、とりわけ染織や服飾を中心にした歴史的研究。古代の錦から江戸時代の小袖まで、その染織技法や模様から日本文化の特質を探求する。主な著書に『花洛(みやこ)のモードーきもの時代』、『江戸のダンディズムー男の美学ー』などがある。

入場
無料

定員：先着100名

申込：不要（直接会場へお越し下さい）

主催：芦屋市立公民館 TEL:0797-35-0700

公民館音楽会

ハッピーツインズ 情熱のヴァイオリンデュオ

辻本明日香&恵理香の双子姉妹のデュオ。国内外の音楽大学を卒業後、クラシック音楽のジャンルを超えて音楽の楽しさと喜びを伝える演奏活動をしているふたりによる、楽しく、そして情熱的なヴァイオリンの二重奏をお楽しみください。

平成29年 9月30日 (土)

午後2時00分～3時30分 (開場1時30分)

芦屋市民センター 音楽室

ピアノ：山口聖代



プログラム モンテイ：チャールダッシュ、ピアソラ：リベルタンゴ、
葉加瀬太郎：情熱大陸、演歌メドレー、H.アーレン：虹の彼方へ ほか

※プログラムは都合により一部を変更することがあります


- 申込方法 ①音楽会名 ②氏名 ③住所 ④電話番号 ⑤参加人数 (1名か2名) を記入のうえ、はがきかファックスで公民館「音楽会係」へ
参加人数が2名の場合は、代表者の氏名と住所、電話番号をご記入ください

【あて先】〒659-0068 芦屋市業平町8-24 公民館「音楽会係」 FAX 0797-31-4998

- 申込締切 9月15日 (金) 必着
■募集人数 120名 (応募多数の場合は抽選、芦屋市民優先 結果ははがきでお知らせします)
■参加費 500円 (当日、会場でお支払いください)

参加費
500円

主催・問い合わせ先 芦屋市立公民館 TEL 0797-35-0700



ハッピーツインズ

辻本明日香 (つじもと あすか ヴァイオリン)

4歳からヴァイオリンを、7歳からピアノを始める。

2004年に英国王立音楽院 (Royal Academy of Music) へ入学。

最大に尊敬する師匠、宗倫匡氏に師事。2006年 Winifred small solo violin prize で優勝、Homi Kanga Memorial Prize (2007)、Marjorie Hayward Prize(2008) で最優秀賞を受賞。2008年6月、同大学を first class、ヴァイオリン部門を第3位で卒業。

これまでに、ヨーロッパ、アジア各地で公演を行いメディアにも取り上げられる。

また、様々なアーティストとのコラボレーションを目的とした活動母体「Music Circus」を組み、奮闘中。

そのかわり、ヴァイオリン講師やインターナショナルスクールでの音楽講師も務める。

ヴァイオリンは Fiolini Guiseppe (1925) を愛用。

辻本恵理香 (つじもと えりか ヴァイオリン)

4歳よりヴァイオリンを、7歳よりピアノを習い始める。

11歳から北大阪ユングゾリスデンに入団し、これまでにオーストラリア、バンコク、ドイツ、フランス、クロアチアなど多くの国々への演奏旅行を行う。

2002年大阪音楽大学に入学し、在学中コンツェルトコンサート・カレッジコンサート・カレッジアンサンブルコンサート・ミレニアムコンサートなど多くのコンサートに出演。

2006年よりロンドンへ留学し、2008年夏にはブリストルの大聖堂にてデュオコンサート、ロンドンでもリサイタルを行い活動の場を広げた。

現在関西を中心に、ホールや公共施設などで幅広く奏活動を行う。また、様々なアーティストとのコラボレーションを目的とした活動母体「Music Circus」を組み、奮闘中。

これまでに、杉山笙子・木田雅子・宗倫匡、各氏に師事。


ピアノ：山口聖代 (やまぐち まさよ)

関西を中心に活動する作曲家・ピアニスト・オルガニスト。

作・編曲家として室内楽・合唱・校歌など様々な委嘱作品に携わる傍ら、ピアニストとしてもクラシックを中心に、様々なジャンルの演奏会に多数出演。大好きなアンサンブルには共演者からも定評があり、コンクールの伴奏から絵・朗読・ダンスとの共演など、アレンジ能力を活かした活動は多岐に渡っている。また、オルガニスト・エレクトーン奏者としてもピアノパートをオーケストレーションして自作自演するなど、幅広い活動を続けている。

大阪教育大学芸術専攻音楽コース (作曲) 卒業。同大学院 (作曲) 修了。

現在、混声アンサンブル "Ensemble Daffodil" ピアニスト兼オルガニスト。"女声合唱団アルスノーヴァ" ピアニスト。弦楽アンサンブル "UNITET" ピアニスト。コラボレーションユニット "Music Circus" メンバー。大阪成蹊大学講師。



NHK公開講演会

平成29年 10月6日(金)

午後2時～3時30分(午後1時30分開場)

芦屋市民センタールナ・ホール

京都国立博物館の開館120周年を記念して今秋開催の特別展覧会「国宝展」(会期10月3日～11月26日)を紹介するNHK公開講演会を開催します。

国宝約200点が一堂に会する展覧会、その歴史と美の真髄に触れるひとときをお過ごしください。

京都国立博物館 開館120周年記念 特別展覧会 国宝展



国宝 嵯峨朝臣作 長谷川久藏筆 西園桃山・16世紀 京都・智恵院
[展示期間：10月24日～11月12日]

- ◆テーマ 『国宝200件! 夢の8週間へのご案内』
- ◆講師 京都国立博物館 研究員 福士雄也氏
- ◆申し込み方法 入場には整理券が必要です。必ず往復はがきでお申し込みください。
往信うら面に、①講演会名、②住所、③氏名、④電話番号、⑤参加希望人数(1名または2名)をご記入のうえ、9月22日(金)<必着>までにお送りください。
返信おもて面には申込者の郵便番号、ご住所、氏名をご記入ください。返信うら面は空白のままにしてください。応募者多数の場合は抽選となります。
- ◆あて先 〒659-0068 芦屋市業平町8-24 公民館「NHK公開講演会 国宝展」係
- ◆問い合わせ先 芦屋市立公民館 TEL. 0797-35-0700

主催 芦屋市立公民館・NHK神戸放送局

NHK公開講演会

北斎—富士を超えて—

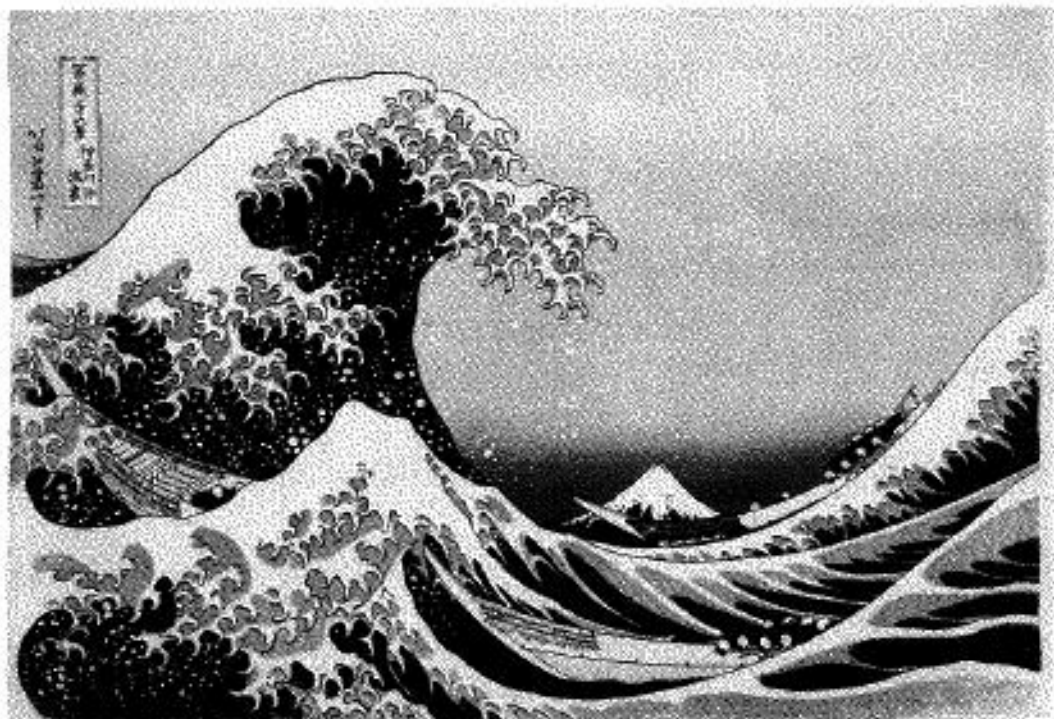
平成29年 10月12日(木) 午後2時～3時30分 (午後1時30分開場)

芦屋市民センタールナ・ホール

あべのハルカス美術館で今秋開催される展覧会「大英博物館 国際共同プロジェクト『北斎—富士を超えて—』(会期10月6日～11月19日)を紹介するNHK公開講演会を開催します。

江戸時代後期に一世を風靡した浮世絵師、北斎。その画業は国内だけでなく、ゴッホやモネなどにも影響を与えました。還暦を超えてから90歳まで描き続けた北斎の世界をご案内します。

The Great Wave !! モナリザと並び称される



富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 天保元～4年(1830～33) 版 大英博物館 ©The Trustees of the British Museum. Acquired with the assistance of the Art Fund

- ◆テーマ 「北斎の富士山、北斎の大波」
- ◆講師 あべのハルカス美術館 館長 浅野 秀剛氏
- ◆申し込み方法 会場には整理券が必要です。必ず往復はがきでお申し込みください。
往信うら面に、①講演会名、②住所、③氏名、④電話番号、⑤参加希望人数(1名または2名)をご記入のうえ、9月22日(金)〈必着〉までにお送りください。
返信おもて面には申込者の郵便番号、ご住所、氏名をご記入ください。返信うら面は空白のままにしてください。応募者多数の場合は抽選となります。
- ◆あて先 〒659-0068 芦屋市業平町8-24 公民館「NHK公開講演会 北斎展」係
- ◆問い合わせ先 芦屋市立公民館 TEL. 0797-35-0700

主催 芦屋市立公民館・NHK神戸放送局

ペットの写真大募集!

無料

メールで写真送付するだけで
あなたのかわいいペットが展示されます!



芦屋のペット

大集合写真展



8/18~9/1 芦屋市民センター展示場にて開催



募集しめきり:平成29年7月31日(月)

応募方法:ペットの写真を一人一枚限りメールで送付ください

メールアドレス:ashiya_kouminkan@yahoo.co.jp

記入事項:芦屋のペット大集合写真展申し込み・住所・氏名・

電話番号・ペットの種類と名前

主催:芦屋市立公民館 芦屋市業平町8-24

お問い合わせは 電話0797-35-0700 FAX 0797-31-4998

*写真はA4サイズで展示、展示会終了後出展者にプレゼントします

展示会終了後9月15日までに市民センター事務所までおこしください(火曜休)

*応募多数の場合は先着70名様限定

A4サイズ
写真持参も
OK!

人気投票は
ありません

企画展示

碎花をめぐる文豪と文化人

平成 29 年 9 月 20 日(水)～10 月 2 日(月) 火曜日休館

入場無料

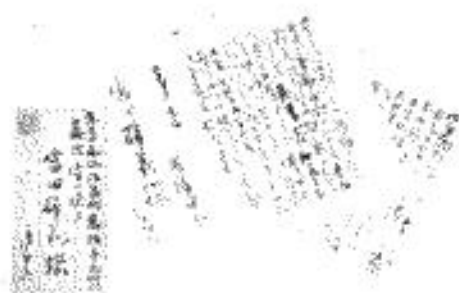


平日・土 午前 9 時～午後 9 時半
日・祝 午前 9 時～午後 5 時

会場 芦屋市民センター 3 階展示場



谷崎潤一郎が現在の富田碎花旧居に住んだ以前から二人の関係は深く、早世した芥川龍之介からもホイットマンの詩集「草の葉」の原本を碎花が譲り受け翻訳しました。これらの文豪や多くの文化人との交流を手紙、写真、書籍などの展示物で紹介します。



谷崎潤一郎から富田碎花への書簡
昭和三年三月七日消印



雑誌「改造」1927. 9月号

(ともに芦屋市立美術館蔵)

問い合わせ 芦屋市立公民館 TEL.0797-35-0700

主催 芦屋市・芦屋市教育委員会

平成 29 年度
公民館事業関連新聞記事

事業名 平成 29 年春の講座 開講記念講演会
 世界が認めた『ケーキの街 芦屋』

開催日 平成 29 年 4 月 12 日 (水)

Topics

平成 29 年 4 月 13 日

【毎日】

世界 2 位の技披露

芦屋で洋菓子の駒居さん

1月にフランス・リヨンで開催された世界最高峰の洋菓子コンクール「クープ・デュ・モンド・ドゥ・ラ・パティスリー」で準優勝した日本チームの一人、駒居崇宏さん(43)が12

日、芦屋市栗平町の芦屋市民センターで、市民ら約60人に洋菓子作りの魅力を語った。

駒居さんは「アンリ・シャルパンティエ」(本店・芦屋市)などの洋菓子ブランドを手掛けるシュゼット・ホールディングス(西宮市)のテクニカル・アドバイザー兼次長。

動画や写真を使って紹介し、バラの花の形のあめ細工づくりでは手元をプロシエクターに映しながら実演し、「熱くて固いあめを引くのはとても力が要る。何度も引く作業を繰り返すことで、つやが出る」などと説明した。

参加者らは、熱せられたあめを触ったり、出来上がったあめ細工に感嘆し、写真。市内のスイーツ店巡りが趣味という市内に住む西川好子さん(66)は「パティシエは力仕事で、センスや器用さ、日々の必要だと感じた」と話



【朝日】

◆松田正平展 23日まで、芦屋市奥池町の花岡画廊(0797・35・0675)。2004年に亡くなった洋画家の松田さんが描いた油彩・水彩・素描計15点や、松田さんを写した写真約35点。

【朝日】

◆こなから会作陶展 20~24日、芦屋市船戸町のモンテメール6階のサロンモンテメール。阪神間の陶芸愛好家で作る同会の30人が手がけた花器、茶陶器、オブジェなど計約400点。問い合わせは代表の中尾さん(090・8981・9385)。

事業名 平和事業に関する展示

阪神間文学にみる大戦下の街とくらし

開催日 平成 29 年 7 月 15 日 (土) ~ 8 月 16 日 (水)

神戸新聞NEXT

2017/8/8 05:30 神戸新聞NEXT

文学からみる戦時下の暮らし 芦屋で平和展



文学に描かれた戦時下の暮らしをひもとく平和展「阪神間文学にみる大戦下の街とくらし」が、芦屋市民センター（兵庫県芦屋市粟平町）で開かれている。16日まで。

同センターが企画。野坂昭如氏や遠藤周作氏など阪神間ゆかりの作家が、戦時中の経験 작품을描いている。平和展では作品中の戦時下の暮らしを切り取り、写真を添えて16作品を紹介する。

西宮市育ちの小説家、佐藤愛子さん著『これが佐藤愛子だ』の展示では、青銅製の門灯の笠や、阪神甲子園駅前の銅像が供出されたことが描写。佐藤さん自身も西宮で被災しており、甲子園球場の鉄傘が取り外された場面で、「大鉄傘が兵器になる」と当時の心情を作品に盛り込んでいる。

また、旧満州国皇帝だった愛新覺羅溥儀のめい、福永輝生さん（76）＝西宮市＝から提供を受けた写真13枚なども展示。来日した溥儀を迎える昭和天皇の様子や輝生さんが溥儀の実弟で、父溥儀に宛てた手紙なども展示されている。

1945年8月5日の神戸大空襲の際、芦屋で焼失した「ゴッホのひまわり」の紹介もあり、同センター職員の男性（66）は「文豪が大戦をどう表現したのかを見て、新たな視点で当時の生活を知ってほしい」と話していた。

午前9時～午後9時半。日曜祝日は午後5時まで、火曜定休。芦屋市立公民館TEL0797・35・0700

(竜門和郎)

事業名 平和事業 (講演会)

私の扱った戦争と平和に関する本

開催日 平成29年8月10日(木)

2017年(平成29年)8月11日(金)

原 田 薬 師

原爆のむごさ世界へ

日本の出版物を長年にわたって海外に紹介した日本著作権輸出センター(東京)創業者で、同社相談役の栗田明子さん(88)が、芦屋市在住の10日、「私の扱った戦争と平和に関する本」をテーマに芦屋市民センターで講演した。芦屋市立公民館が企画し、市民ら約60人が参加した。



絵本「ヒロシマのむごさ」(栗田)

日本の出版物を紹介 栗田さん講演



講演する栗田明子さん＝芦屋市栗平町の市民センター

栗田さんは甲南女子高校を卒業後、商社や出版社などを経て、1984年に日本著作権輸出センターを設立。2007年に同社社長を退任するまで、日本の小説や絵本など約1万3千作品を約40カ国に紹介した。

栗田さんは講演で、心に残る作品に「ひろしまのむごさ」(80年、小峰書店刊)を挙げた。「原爆の図」で知られる画家の丸木俊さんが、被爆者の体験などをもとに原爆被害の惨状を描いた絵本だ。栗田さんは高校1年の時、広島への修学旅行で原爆症の犠牲者を受け、ケロイド状に焼きただれた被害者の背中を触った。「被爆図として原爆のむごさを世界に訴えた」との思いが強かったという。しかし、米国では「絵本に対する編集者の反応は「加害者として出版は難しい」という声が多かった。そんな中、ある出版社の編集長が「自分の手を出したいが、大手のため、営業が反対する」と言い、代わりに中堅出版社を紹介してくれた。その後、出版され、米国で賞を受けるなど評価されたという。栗田さんは欧州にも売り込み、世界14カ国以上で出版された。

「トランプ氏・正恩氏も読んで」

栗田さんは講演の最後で、この絵本に記された子どもたちへのメッセージを読み上げた。「太陽は、せかいじゅうのだけれど、おなじです。私たちが立っている地球も、たったひとつしかありません。あなたたちが大きくなって、そのことがほんとうにわかるようになったら、あなたたちみんなが、いつまでも、なかよくくらせるすばらしい地球があることをねがって、この本をこつこつ読んで」(栗田)

文化

日中韓の身 京都で25年

きょうから現代ア-



日中韓の美術家らが競演する現代アートの国際展「アジア回廊 現代美術展」が19日、京都市中京区の二条城と芸術芸術センターで開催する。「水玉」アートで有名な津田清生氏や中国出身の蔡國強氏、韓国出身のキムスージャ氏ら、世界的なスター作家をはじめ25組が出展。インスタレーション(空間芸術)や映像作品などのアートを通じて、国や民族を超えた親和や寛容、平和、相互理解などを問いかける。

美術文化の交流を目的とした日中韓の共同事業「東アジア文化都市」のイベントの一つ。多摩美術大学長で美術評論家の津田清生氏がアーティストリックファイレクターを務める。二条城は、世界遺産であり大阪府の舞台となった歴史的建築物。東山園内二の丸御殿前や堀など境内全域に作品が設置される。京都市芸術センターの建物は昭和初期に建てられた元小学校で、一部が国の登録有形文化財となっている。ほかの主な出品作家は、中国の楊福強氏、京都府からの高木孝子氏、久門剛史氏ら。神戸在住の眞子・堀尾真治氏も、仲間の間芸芸術集団「回廊」を率い参加する。神戸出身のやなぎみわ氏は、京都・河原町十条の特設会場で、スマートフォンを用いた演劇作品「回廊」(8月14~17日)を披露する。

「ひろしまのピカ」など海外出版



日本の書籍の海外出版に長年携わってきた日本著作権輸出センターの栗田明子相談役(右)写真だが、法属中内で講演した。栗田さんは、24歳で上京するまで西宮市と西宮市で育ち、4年前から再び西宮で暮らす。

日本著作権輸出センター相談役 芦屋の栗田さんが講演

講演では、14カ国で出版された丸木雄之の絵本「ひろしまのピカ」など戦争と平和に関する本をめぐり、思いを語った。栗田さん自身、疎開を経験し、戦後間もなく母親を失った。進学した甲南女子中は戦災で校舎を焼失しており、高校の修学旅行では広島を訪問。被害者の姿を深く胸に刻んだという。

著作権の仲介にあたって「被爆国として原爆の恐ろしさを伝えることを意識していた」と振り返りつつ、原爆問題や戦争の甚まる国際情勢をよまへ、「今こそ多くの人が読んでほしい」と訴えた。(田中真治)

原爆の恐ろしさ伝えるため

原爆の恐ろしさ伝えるため、栗田さんは、24歳で上京するまで西宮市と西宮市で育ち、4年前から再び西宮で暮らす。

落合芳雄「百物語 笑ひはん」にや1890年



「百物語 笑ひはん」は彼の代表作のひとつです。落合芳雄(1890年)著、堀尾真治(訳)。

夏季特別展「オバ」(神戸新聞社など)日まで、明石市立市上ノ丸2)で開催 一般800円。☎078-

業名 芦屋のペット大集合写真展

開催日 平成29年8月18日(金)～9月1日(金)

2017年(平成29年)8月20日 日曜日

新 戸 申 区

市民センター

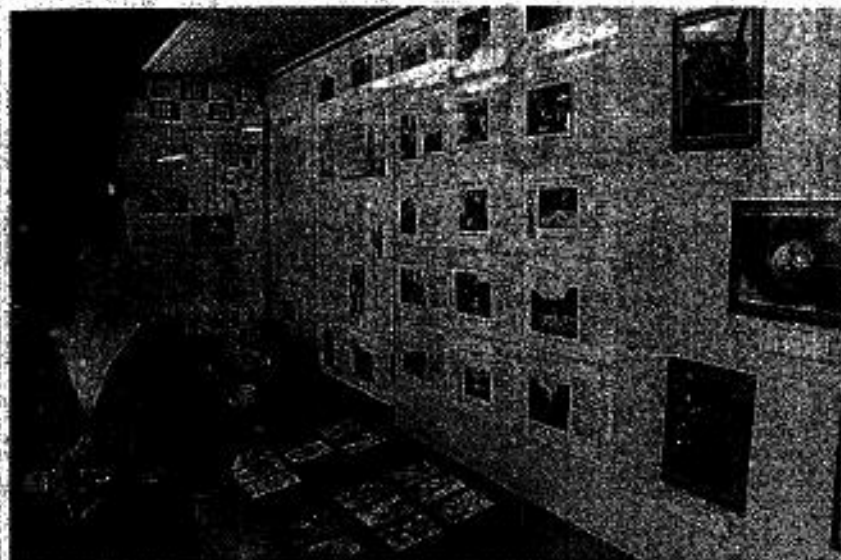
小説の舞台 写真で紹介

芦屋の作家榎野さん 最後の晩ごはん

芦屋市在住の作家榎野道流さんの作品に登場する店や施設などの写真展が、同市民センター(業平町)で開催されている。8作目まで刊行中の小説「最後の晩ごはん」シリーズは、阪神芦屋駅周辺が舞台。榎野さんは「芦屋のイメージは誇張されがちだが、地に足の着いた街だと伝えたい」と話す。(中川 恵)

榎野さんは、兵庫医科大学に作家デビューした。非常
学を卒業後、大学院生時代一勤の監査医として勤務した

パン店など20カ所



作家の榎野道流さんと、小説に登場する店や施設の写りが並ぶ会場＝芦屋市業平町

経験もあり、創作活動の傍ら、各地の医療系専門学校などで解剖学や法医学を教えている。

「最後の晩ごはん」は、活動休止に追い込まれた若手俳優が、故郷の芦屋に戻って食堂で働き、客との触れ合いを通して成長する物語。芦屋書局や芦屋神社、パン店、焼き菓子店など、実在する店舗や施設が作品に多数登場する。今回、展示を企画した市立公民館の職員が、そのうち20カ所の写真を地図と一緒に並べた。

また会場では、市民が自慢のペット写真を展示する「芦屋のペット大集合写真展」も同時開催。ウサギや犬、猫などの応募作品約70点が並ぶ。猫2匹と文鳥1羽、イモリ1匹を飼っている榎野さんも出展。パソコンで小説を執筆する際、必ず文鳥が左の袖口に入ってくるという、その様子を収めた写真などが楽しめる。

いずれも9月1日まで。無料。午前9時～午後5時半(日曜日は午後5時まで、最終日は正午まで)。22、29日休み。市立公民館 ☎0797・355・0700

第8回文学サロン

谷川俊太郎氏を
招いて富田碎花と
谷崎潤一郎

NAIKYU TOMI & JUNICHIRO TANIZAKI

芦屋に住んだ詩人富田碎花は、多くの文豪との交流をもっていました。特に谷崎潤一郎とは、谷崎が昭和9年に現在の芦屋市宮川町の富田碎花旧居に住んだ以前から深い交流があり、谷崎の『文章読本』では碎花による詩の朗読を絶賛しています。今回は、富田碎花旧居開館30周年を記念して、富田と谷崎を中心とした昭和の文豪、文化人の交流についての興味深い講演や、現代日本を代表する詩人、谷川俊太郎氏による詩の朗読と詩の素晴らしさを語る講演を行います。

Program

「富田碎花と谷崎潤一郎」文化プロデューサー 河内厚郎

「富田碎花・詩とリズム」詩人、富田碎花賞選考委員長 たかとう江

講演と朗読「詩の音読の魅力」詩人 谷川俊太郎

朗読 詩「未来へ」ほか

芦屋少年少女合唱団による合唱

谷川俊太郎作詞 信長貴富作曲 合唱歌「未来へ」

富田碎花作詞 精道中学校、宮川小学校、岩園小学校校歌

平成29年

10月1日(日)

午後2時開演(1時30分開場)

芦屋市民センタールナ・ホール

「富田のような朗読の名人」
「今日においても全然聲と云ふものを
想像しないで読むことは出来ない」
—— 谷崎潤一郎『文章読本』

入場料

前売 1,000円 当日 1,200円 (全席自由)

8月2日(水) 発売

チケット販売所

芦屋市民センター事務所、芦屋市役所売店、ローソンチケット(Lコード53946)

主催：芦屋市・芦屋市教育委員会

問合せ：ルナ・ホール事業担当 TEL. 0797-35-0700 (〒659-0068 業平町8-24)

富田碎花の生涯と芦屋

詩人富田碎花は、明治23年(1890)11月15日、岩手県盛岡市に生まれました。本名戒治郎。上京後、18歳で与謝野鉄幹・晶子主宰の新詩社に参加。筆名碎花で『明星』に短歌を発表します。石川啄木に思想的な影響を受け、明治45年(1912)5月、啄木の死を悼み、歌誌『曠野』に「民衆の中に行く」"Going to people"というエッセイを発表しています。歌集『恋しき愛』を大正元年(1912)に出版。その前後からカーペンター、トロウベル、ホイットマンを日本に紹介。訳詩集カーペンター『民主主義の方へ』(大正5年)、訳詩集ホイットマン『草の葉』(大正8年)、エッセイ『解放の芸術』(大正11年)等を出版しました。

大正のはじめ、病氣治療のため芦屋へ転地。田島マチを知り、大正9年(1920)に結婚。のちに谷崎潤一郎住居のあとに入居して、以後芦屋に定住しました。詩作のかたわら全国各地を旅し、また多くの校歌・市町歌を作詞します。その多彩な業績から、「兵庫県文化の父」ともよばれました。昭和23年(1948)第1回兵庫県文化賞を受賞。

著作は上記のほか、詩集『末日鎮』(大正4年)、『地の子』(大正8年)、『時代の手』(大正11年)、『登高行』(大正13年)、『手招く者』(大正15年)、『歌風土記兵庫県』(昭和25年)、『ひこばえのうた』(昭和45年)、『兵庫讃歌』(昭和46年)、『視差錯落』(昭和50年)等があります。

昭和59年(1984)10月17日、93歳で長逝後、すべての蔵著・遺品類が芦屋市に寄贈されたのを機に「富田碎花顕彰会」が発足し、資料の整理をすすめてきました。

芦屋市は、平成2年(1990)に富田碎花生誕100年を記念して、「富田碎花賞」を創設しました。



谷川俊太郎 (たにかわ しゅんたろう)

1931年東京生まれ。詩人。

1952年第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。1962年『月火水木金土日の歌』で第四回日本レコード大賞作詞賞、1975年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、1982年『日々地図』で第34回読売文学賞、1993年『世間知らず』で第1回萩原朔太郎賞、2010年『トロムソコラージュ』で第1回鮎川信夫賞など、受賞・著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表。近年では、詩を釣る iPhoneアプリ『谷川』や、郵便で詩を送る『ポエメール』など、詩の可能性を広げる新たな試みにも挑戦している。



たかとう 匡子 (たかとう まさこ)

詩人。1939年、神戸市に生まれる。神戸市在住。日本文芸家協会会員。6歳で神戸、姫路と2度空襲にあい、56歳で阪神・淡路大震災に遭遇。18歳の頃、「現代詩をよむ会」に出席、「神戸詩話会」で詩作を始める。1961年から2004年まで高校の国語教師。「選刻」「火牛」を経て現在は「イリプス」同人。「時刻表」編集発行。詩集に『失われた調律』『危機たちの点描』『ヨシコが燃えた』『神戸・1月17日未明』『ユンボの爪』『地図を往く』『水風』『水と一緒に暮らしましょう』『学校』(第8回小野十三郎賞)『女生徒』ほか。エッセイ集に『竹内浩三をめぐる旅』『地べたから視るー神戸下町の詩人林喜芳』『神戸ノート』『私の女性詩人ノート』『私の女性詩人ノートⅡ』、絵本に版画家田島征彦との共著『よしこがもえた』。2015年第39回井植文化賞受賞。

河内厚郎 (かわうち あつろう)

1952年西宮市生まれ。演劇評論家として執筆活動に入る。1987年から『関西文学』編集長を二期つとめる。1991年大阪市内に個人事務所を開設。文化プロデューサーとして『咲くやこの花賞』(大阪市)・宝塚市民文化賞・兵庫県文化賞などを受ける。NHK番組審議員や、毎日新聞紙面審議員を歴任。現在、兵庫県立芸術文化センター・特別参与、阪急文化財団理事、はびきの市民大学・学長、三田市総合文化センター(郷の音ホール)事業企画アドバイザー、文化庁芸術祭審査員。著書に『わたしの風姿花伝』『淀川ものがたり』ほか。



公民館ギャラリー 展覧会 「碎花をめぐる文豪と文化人」

平成29年9月20日(水)～10月2日(月) 平日・土 午前9時～午後9時30分 火曜日休館
日・祝 午前9時～午後5時

会場 市民センター3階展示場

入場無料

アメリカを代表する詩人、ホイットマンの詩集『草の葉』を大正8年に日本語に翻訳した富田碎花。翻訳の元となった英語の『草の葉』を碎花に渡したのは芥川龍之介だった…。富田碎花と谷崎潤一郎、そして芥川龍之介の3人を中心に、富田碎花と多くの文豪や文化人との交流を、写真、手紙、書籍などで紹介します。

お問い合わせ 芦屋市立公民館 TEL.0797-35-0700



谷崎潤一郎から富田碎花への書簡